

# 第1回策定委員会(12月25日開催)における主な議論について

## 【1. 第1期総合戦略】

### <KPIについて>

- 数字の出し方というのは、目的のビジョンがあった上に、最後についてくるのが数字である。さらに言えば、数字よりも本当にそう感じているのかという市民の反応をリサーチしたものが答えとして入っているのかが重要ではないか。ただ数字を聞くのではなく、本当に市民の人が喜んでいるかということをつまえているのかが大事ではないか。
- 数字が良くなったから効果や満足度が増したであるとか、数字が良くなかったから効果や満足度が下がったということは必ずしも言えないのではないか。
- 計画した事業の「意図」が達成されているのかといった観点が、数字の横にあれば分かりやすいのではないか。

## 【2. 第2期総合戦略の方向性等】

### <方向性について>

- 的を絞って、夕張をこういうまちにしていっての方がいいというのを考えるのが良いのではないか。
- 総合戦略は5年で終わりというものではなく、継続してやっていくもの。第2期の総合戦略については、根本的に変えるのではなく、第1期をベースにして修正等していくべきではないか。
- ここに暮らしていく人の生きがい、やりがい、夕張に住んで良かった、夕張にいてよかったという所をどこに視点を置いてどういう取組みをしていくのかというところが大事なのではないか。

# 第1回策定委員会(12月25日開催)における主な議論について

## <各分野における意見等について>

### (まちづくり)

- まちづくりマスタープランや第1期の総合戦略の中で、唯一決めたことが清水沢を中心に拠点を作っていこうということである。人口が減っているのに、全ての地区において人口が増えていくことは難しいが、清水沢を拠点にしようという意思ができたことによってまちづくりの方向性が出てきており、人が集まる場所や施設ができてきている。これは大事なことであり、これから夕張の将来を考えていくうえでは、どのように拠点を作っていくのかをしっかりと議論すべきではないか。
- 清水沢を中心として考えていこうという意思がある中、市役所が今後も本町にあるべきなのか、また夕張の様々な施設をどのようにこれから考えなければいけないのか、まさにこうしたことについて今考えなくてはいけないタイミングなのではないか。

### (産業)

- 地道な経済活動の中でいかに固定ファンをつくっていくか、どうやってすき間産業を狙っていくかといった知恵を出していかなければならないのではないか。
- 住民の暮らしがよくなるためには、働く受け皿があるかないか。またそういった方々の商店に対してどうやって応えていくか。それが地域の経済を活性化させるのではないか。

### (雇用)

- 夕張で仕事を探している方の年齢構成を見ると、45歳以上の方が60数%を占めている状況。若い方と年齢が上の方とどちらが就職している人数が多いかと言えば、若い方のである。上の年齢層の方も就職できる受け皿があるとよいのではないか。

### (交流人口・関係人口)

- 三笠での食に特化したまちづくりに人が多く来ている、北見での映画ロケ地に外国人が多く来ている、網走でのスポーツ合宿に企業や大学が多く来ているなどなど、道内でも様々な発見がある。夕張にも似たような環境はある。なかなか難しいとは思いますが、他自治体の取組に何かヒントがあるのではないか。

## 第1回策定委員会(12月25日開催)における主な議論について

- 夕張には、意外と遺産というか、廃線マニア、ダムマニアといったいろんなマニア受けする施設があるということがわかってきた。探してみれば意外と魅力的なことがあるのではないかな。
  - 定住だけにこだわるのではなく、関係人口を増やすことも必要ではないかな。いろんなものをうまく組み合わせていければ、関係人口を増やしていけるのではないかな。
  - 北京オリンピックに向けて日本はウィンター事業がものすごく活性化される。国は、全国のスキー場の手直し、手掛けを色々国としてやっていくというのを発表しており、この夕張のスキー場をどういうようにしていくかというのは、すごく大きなチャンスではないかな。
  - 2024年の北京オリンピック後に、日本にウィンター事業のチャンスが来ると思われるので、その辺りをしっかりと戦略のテーマに盛り込んでみてはどうか。
  - 今年、夕張で全道中学校スキー大会が行われる予定だが、相当の経済効果があると考えられる。強みを活かして頑張ってイベントを繰り広げていければ、もっと夕張全体がにぎやかになっていくのではないかな。
  - 北海道全体で見れば、来年度は、白老町のウポポイということでアイヌの国立博物館ができるということ、札幌にオリンピックのマラソンと競歩、サッカーの試合があるということで、北海道に人が集まるという年である。また、10年後には札幌までの新幹線開通や、札幌冬季オリンピックの誘致といったところでも、色んな方々が北海道を訪れるといった中で、夕張としてそこに向けて何か手立てを打っていく必要があるのかといったことも今後考えてみてもいいのではないかな。
- (高校)
- ハワイや八丈島に短期留学に行ったり、様々な助成を受けている点について、良い面もあるとは思いますが、生徒が一番満足に感じるのは、そういう所ではなくて、本当に毎日の1時間1時間の授業だったり、部活動だったりという、当たり前なことがしっかりとやられているかどうかということではないかな。

## 第1回策定委員会(12月25日開催)における主な議論について

- 高校に限った話ではないが、夕張を魅力的にするには、何か目に付くようなことをやるよりも、夕張にいる人が毎日毎日どうしたら幸せに感じられるのかをまず第一に考えることが大事なのではないか。どうしても何かやろうとすると、あれをやるこれをやるという実績作りみたいになってしまうが、大事なことは必ずしもそういったことではないのではないか。
- 夕張には素晴らしいスキー場もあるが、何かに特化したところで生徒を集めるのもよいのではないか。
- 夕張高校が無くなってしまうと社会にでる出口が無くなるのではないか。また、三笠高校みたいに特化するという意見もあるが、夕張で特化すると普通科で学びたい子どもたちが通う学校が無くなってしまう。普通科は普通科で残しつつ、特色を出す方向がいいのではないか。

(福祉)

- 高齢化率が全国トップクラスの本市において、もう少し高齢者雇用や福祉の観点を1期目に入れておくべきではなかったのか。